

付表-1 交通システム工学科の学習・教育到達目標とJABEE基準の対応 (平成25年4月1日改訂)

JABEEの基準1(1) 学科の 学習・教育到達目標	(a)	(b)	(c)	(d)			(e)	(f)	(g)	(h)	(i)
				(1)	(2)	(3)					
(A)	◎										
(B)		◎								○	
(C)			◎	◎	◎						
(D)						◎					
(E)									○	◎	◎
(F)									◎		
(G)							◎	○		○	
(H)										◎	
(I)							○	◎		○	○

交通システム工学科の学習・教育到達目標

- (A) 基礎学習力：地域環境の維持と公共の福祉の向上を理解し、安全かつ快適な地域社会を創出するための基礎を総合的に学習する。
- (B) 技術者倫理：土木・交通工学のもつ社会的影響力の重要性和土木・交通技術者の社会的責任を理解・自覚し、自律的かつ自主的に問題解決する能力を身につける。
- (C) 専門基礎学力：交通施設や交通機関の整備と維持管理に関連する科学技術の基礎について深く理解できる、知的基盤を形成する。
- (D) 専門応用学力：交通計画系、社会・環境系、社会基盤系の各分野の専門知識を身につける。
- (E) 実験・実習・演習を通じた計画的遂行能力：実験を計画・遂行・解析・考察する能力、および時間内に計画を進め、まとめる能力を身につける。
- (F) 生涯自己学習能力：社会基盤の構築と運営を図るべく、社会の要望・変化に柔軟に対応し、自らの成長に向けて、継続的に学習できる能力を身につける。
- (G) デザイン・総合力：都市計画・まちづくりと土木交通施設に関連する技術を活用して美しい都市・地域社会をデザインする総合力を身につける。
- (H) 歴史・文化・環境を生かす実践能力：歴史、文化および環境に配慮して社会基盤整備をおこなう土木・交通技術者としての実践能力を身につける。
- (I) ファシリテイト能力・コミュニケーション能力：専門分野に関して、関係者や当事者に説明して討議をおこない、合意形成を図る能力を身につける。

(日本技術者教育認定基準・共通基準(2012年度～))

JABEEが定める基準(1の(2))

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解
- (c) 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習できる能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

(日本技術者教育認定基準・個別基準・2012年度～)

分野別要件(土木及び関連の工学分野)

当該分野にふさわしい「数学、自然科学及び科学技術に関する内容」として、以下が考慮されていること

- (1) 応用数学
- (2) 自然科学(物理、化学、生物、地学のうち少なくとも1つ)の基礎
- (3) 土木工学の主要分野(土木材料・施工・建設マネジメント/構造工学・地震工学・維持管理工学/地盤工学/水工学/土木計画学・交通工学/土木環境システム)のうち、最低3分野以上を含むこと

(日本技術者教育認定基準・2008年度適用)、土木技術検定試験(専門分野出題範囲)

主要分野とキーワード一覧表

主要分野	
土木材料・施工・建設マネジメント	コンクリート、鋼材、瀝性材料、複合材料・新材料、木材、施工、維持・管理、建設事業計画・設計、建設マネジメントなど
構造工学・地震工学・維持管理工学	応用力学、構造工学、鋼構造、コンクリート構造、複合構造、風工学、地震工学、耐震構造、地震防災、維持管理工学など
地盤工学	土質力学、基礎工学、岩盤工学、土木地質、地盤の挙動、地盤と構造物、地盤防災、地盤環境工学など
水工学	水理学、環境水理学、水文学、河川工学、水資源工学、海岸工学、港湾工学、海洋工学など
土木計画学・交通工学	土木計画、地域都市計画、国土計画、防災計画・環境計画、交通計画、交通工学、鉄道工学、測量・リモートセンシング、景観・デザイン、土木史など
土木環境システム	環境計画・管理、環境システム、環境保全、用排水システム、廃棄物、土壌・水環境、大気循環・騒音振動、環境生態など